



晩秋を迎え、山々が黄色く赤く染められてきました。自然の無言の営みに畏敬の念を覚えます。



今年度、佐敷中学校区(3小1中)では小中連携目標を「夢をもち、豊かな心をもった子どもの育成」とし、取組を進めています。その一つが、生徒会を中心とした「小中合同挨拶運動」です。コロナ禍にあることを考慮し、先日は「ひじタッチ」による挨拶を行いました。佐敷中学校の生徒会執行部の5名が来校し、西門口のところでさしきっ子を迎えてくれました。参加した6年女兒は「中学生の姿がとてもさわやかでかっこよかったです。これからのお手本にしたいです」と話していました。

『考動』をテーマにしている本校の児童にとって、先輩の姿から多くのことを学び取ることができた貴重な機会になりました。今後も「みんなが楽しく学校に通える佐敷づくり」に向けて校内でも取組を続けていきます。

深まりゆく秋、児童の心や体が一段と成長する実りを目指し、様々な体験活動をとおして学びの質をさらに高めていきたいと思えます。



社会科見学旅行(4年生)



4学年の社会科の学習内容の一つに、「地域の発展に尽くした先人の具体的事例をもとに、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したこと」を取り上げることが定められています。

そこで、本校の4年生が先日、校外学習のため通潤橋と緑川ダムを訪ねました。(写真は、通潤橋です)

通潤橋は周辺の白糸台地一帯に水を送るために農業用水路の一部としてつくられた水路橋です。子どもたちは、事前学習で得た知識を史料館の方の説明によって深め、実物を見ることによって当時の人々の願いに思いを馳せることができました。



見学後、「水不足に困っていた白糸台地の人々の思いが伝わってきました」「水を高いところに上げる工夫がよくわかりました」「アーチ型の橋にするために石を切って積み重ねた昔の人の知恵と努力はすごいな」といった声が聞こえてきました。

現地を訪ねて先人の生き方に触れ、学びの多い見学旅行となりました。



各担任による学級紹介



4年1組の子ども達は良いところをいっぱい持っています。立ち止まって挨拶をする子。花の水替えやメダカのお世話をする子。昼休みにのお笑いをする子。それを見て大笑いする子。忘れ物もしない子。ちょっとした時間でも本を読みます。誰とでも笑顔で遊ぶ子。粘り強く問題に取り組む子…そんな23人が今頑張っていることは、『時計を見て行動すること』です。けじめのある生活をする活動に集中でき、協力する気持ちも生まれ、自然とパワーが出てきます。この一事徹底で『思いやり・集中・元気』の学級目標を達成し、5年生に向かって前進します。

4年1組担任 設楽 美央



『笑顔いっぱい 仲良くがんばる 1年2組』の学級目標のもと、22名で毎日楽しく過ごしています。1年2組の自慢は、何ととっても「元気のよい挨拶」です。朝から大きな声の挨拶が教室内で飛び交います。帰りの会の「きりきりさん紹介」では、1日の学校生活の中でお互いに良かったところを認め合っています。毎日、男も女も仲良く過ごすことができているのも魅力の一つです。半年が過ぎ、落ち着いて学習する態度が身につけてきました。これからは、自分の周りへと視野を広げ、相手の気持ちを考えたり、自ら進んで行動したりできるような2年生を目指して頑張ります。1年2組担任 榮永 智輝

地域の教育(共育)力

「小学生が危険な自転車の乗り方をしていたので注意をしました。○年生くらいの子供もでした。何かあってからでは遅いので、学校でも明日改めて指導をお願いします。」



という電話が18日の放課後、地域の方(Aさん)からありました。

これまで、匿名での電話は何度もありましたが、実名を名乗り、その場で注意をしてくださった事案はあまりありませんでした。

以前、学校通信「創進」第4号(5月18日発行)で、以下のことを記しました。

本校では、学級担任を「縦軸」、各プロジェクトチームを「横軸」として常にクロスさせながら、教育活動の質の向上を目指して活動していきます。ただ、組織体をより強固にするためには保護者や地域の皆様のサポートも必要です。建築物を補強する筋交いのように「斜め」から支えていただきますと心強いです。



今回の事案は、まさに「斜め」から支えてくださった行為です。学校でのすべての指導を終えた後、報告とお礼を兼ねてAさんに電話をしました。

「校長先生、子どもたちは地域の宝ですよ。大人が見守っていくのは当たり前のことです。たとえ、うるさいと思われても命より大事なものはないので・・・」

Aさんからの返しの言葉に、「ほっ」と安心できる温もりを感じました。